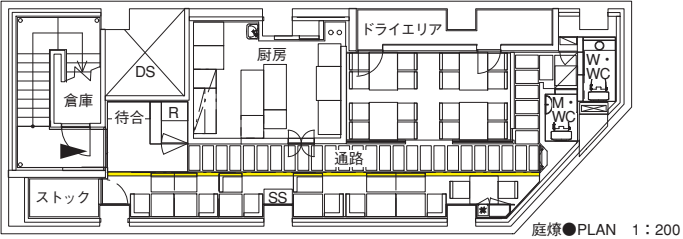


繊細さと軽快さを演出する
“光ファイバーのれん”

ダイニングバー 庭燎

設計：橋本タ紀夫デザインスタジオ
橋本タ紀夫 岩田真理子
施工：クレヴァリー

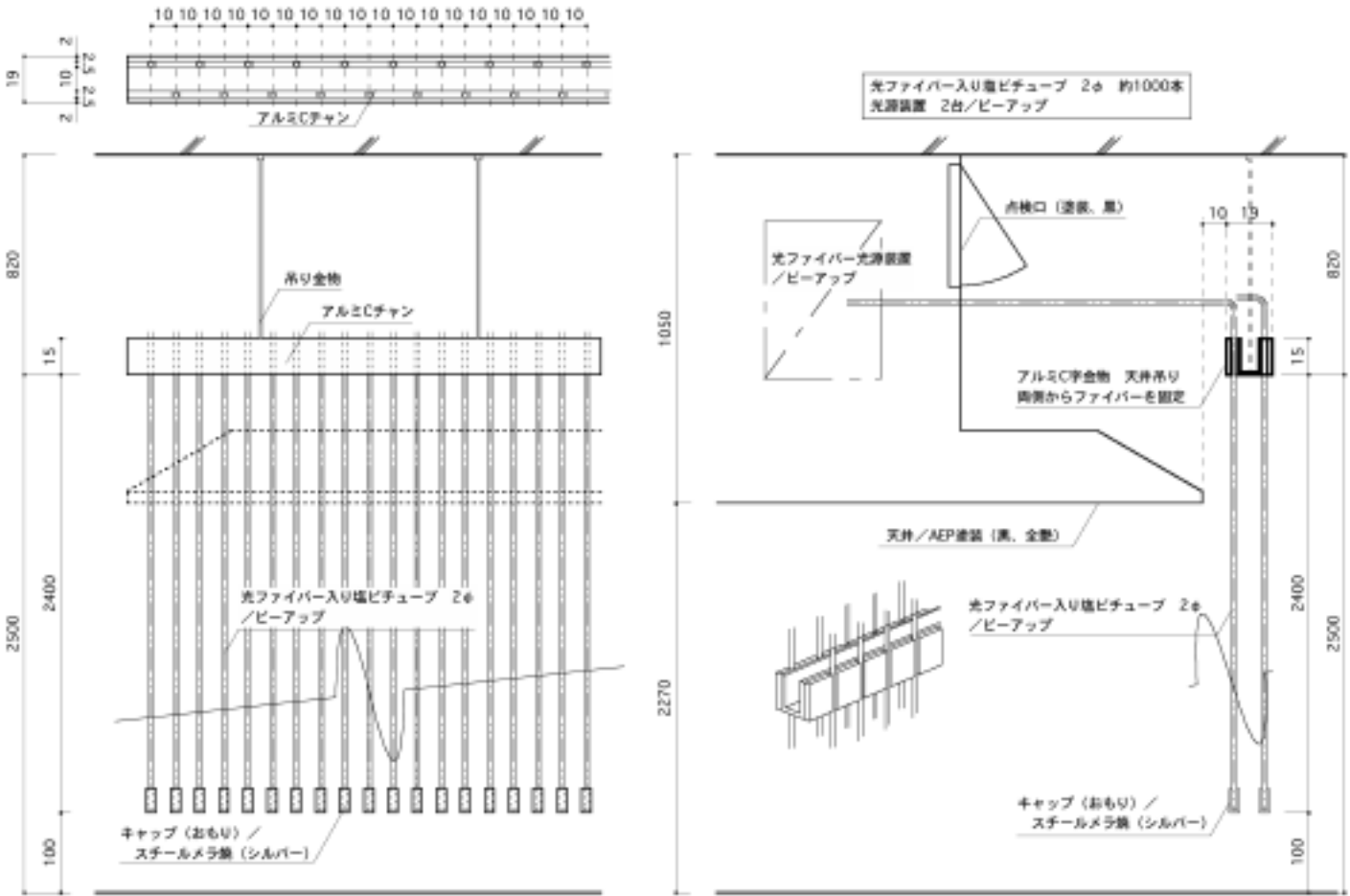
工事種別：内装のみ 全面改装
床面積：61.6㎡（うち厨房13.7㎡）
客席数：30席
工期：2004年4月28日～5月31日
撮影：ナカサ&パートナーズ（05年1月号）



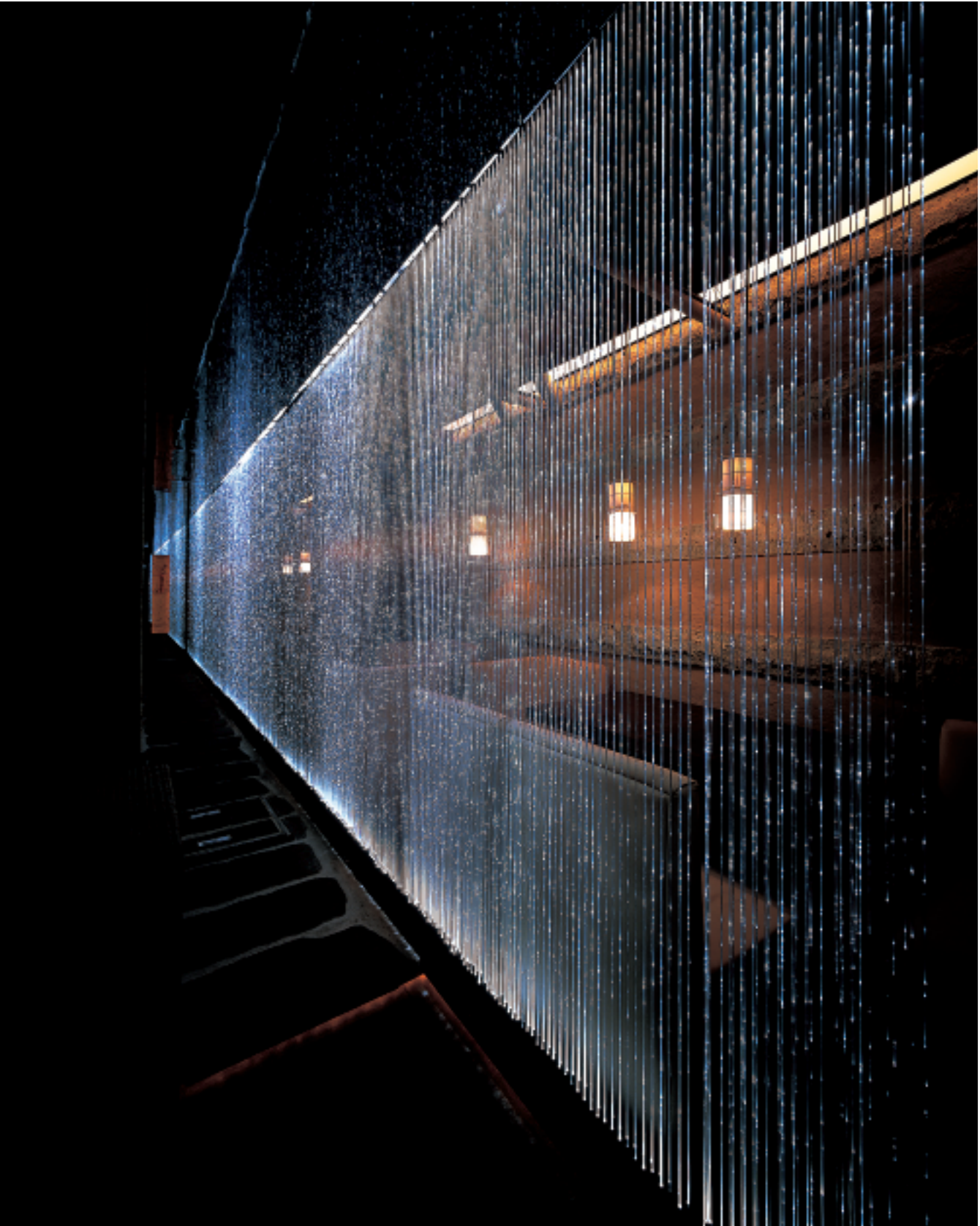
通路越しに“光ファイバーのれん”と客席を見る

“光”で仕切る
20坪弱という限られた空間にプライバシーを考慮しながらも、なるべく閉鎖的な印象を与えないようにと考えたのが、この“光ファイバーのれん”である。天井内部に光源装置を設けて、そこに光ファイバーの入った塩ビチューブを繋ぎ、金物で吊る位置を固定している。人が横を通るたびにわずかな揺らぎを見せ、キラキラと輝いている様子は、柔らかくもしっとりと落ち着きのある個性的な空間を生み出している。下部にはスチールのキャップをしているが、これはチューブをまっすぐ張らせるためのおもりとしての役割も担っていて、のれんをくぐる時にこのおもり同士が綺麗な音を奏でる。
また、天井は黒の艶のある素材を用いることにより、のれんを映りこませて空間に広がりを出している。
日本の的なれんに対して、この光ファイバーの入った塩ビチューブという素材を用いることにより、空間の間仕切りとしての効果を出すと同時に、見た目に繊細さと軽快な印象を与えることができた。

〈岩田真理子／橋本タ紀夫デザインスタジオ〉



庭燎 ● 光ファイバーのれん詳細図 1:3



連続する光で空間を仕切る“光ファイバーのれん”